

壤混和 (2g/株) し、50%顆粒水和剤の 10,000 倍希釈液を 2 回散布 (250、257L/10a) したところ、散布後 1~7 日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド : 0.12、0.13 ppm

トマト (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、1%粒剤を定植時植穴土壌混和 (2g/株) し、20%フロアブルの 2,000 倍希釈液を 2 回散布 (300L/10a) したところ、散布後 1~7 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない

イミダクロプリド : 0.26、0.13 ppm。

#### ④ ミニトマト

ミニトマト (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、1%粒剤を定植時植穴処理 (2g/株) し、20%フロアブルの 2,000 倍希釈液を 2 回散布 (200、300L/10a) したところ、散布後 1~14 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド : 0.24、0.52 ppm

#### ④ ピーマン

ピーマン (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、1%粒剤を定植時植穴処理 (2g/株) したところ、処理後 46~62 日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド : 0.08、0.01 ppm

ピーマン (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、1%粒剤を定植時植穴処理 (2g/株) し、10%水和剤の 2,000 倍希釈液を 2 回散布 (200L/10a) したところ、散布後 1~3 日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド : 1.20、0.60 ppm

ピーマン (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、1%粒剤を定植時植穴処理 (2g/株) し、50%顆粒水和剤の 5,000 倍希釈液を 2 回散布 (150、200L/10a) したところ、散布後 1~7 日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド : 0.8、0.8 ppm

#### ④ なす

なす (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、1%粒剤を定植時植穴処理 (2g/株) したところ、処理後 47~75 日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド : <0.005、<0.005 ppm

なす (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、1%粒剤を定植時植穴処理 (2g/株) し、10%水和剤の 2,000 倍希釈液を 2 回散布 (200L/10a) したところ、処理後 1~3 日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.121、0.078 ppm

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（2g/株）し、10%水和剤を2回常温煙霧処理（100g/5L/10a）したところ、処理後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.04、0.12 ppm

#### ㊸ししとう

ししとう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壌混和（2g/株）し、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（300, 120L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.6、1.2 ppm

#### ㊹伏見甘長とうがらし

伏見甘長とうがらし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壌混和（2g/株）し、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（300, 284.9L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.2、1.5 ppm

#### ㊺きゅうり

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（2g/株）したところ、処理後38～51日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.010、<0.005 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（2g/株）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、処理後1～3日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.18、0.12 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（2g/株）し、10%水和剤を3回常温煙霧処理（100g/5L/10a）したところ、処理後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.04、0.04 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（2g/株）し、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を5回又は3回散布（250L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、5回散布した試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.08、0.20 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壤混和（2g/株）し、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布（150～200, 300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.42、0.16 ppm

#### ⑤かぼちゃ

かぼちゃ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壤混和（2g/株）し、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（188.9, 200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.02、0.04 ppm

かぼちゃ（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を定植時植穴土壤混和（2g/株）し、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.09 ppm

かぼちゃ（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を定植時植穴土壤混和（2g/株）し、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.10 ppm

#### ⑥すいか

すいか（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（10g/株）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を4回又は3回散布（200L/10a）したところ、散布後3～7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、0.04 ppm

すいか（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴処理（10g/株）し、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.11、0.02 ppm

#### ⑦メロン

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壤混和（2g/株）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後3～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.01、0.01 ppm

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壌混和（2g/株）し、50%水和剤の10,000倍希釈液を3回散布（250L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.03、0.03 ppm

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壌混和（2g/株）し、50%水和剤の5,000倍希釈液を3回散布（300, 250L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.03、0.03 ppm

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壌混和（2g/株）し、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.02、<0.01 ppm

#### ㊦まくわうり

まくわうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を定植時植穴土壌混和（1g/株）したところ、処理後70～90日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.02、<0.02 ppm

#### ㊧にがうり

にがうり（可食部）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（250L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.47、0.85 ppm

にがうり（可食部）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（250L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.16、0.42 ppm

#### ㊨ほうれんそう

ほうれんそう（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.03、0.17 ppm

㊦ オクラ

オクラ（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（186～189L、200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.18、0.18 ppm

オクラ（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を3回散布（132～189L、200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.12、0.21 ppm

オクラ（さや）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.16 ppm

㊧ さやいんげん

さやいんげん（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植穴処理（2g/株）したところ、処理後48～74日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.01、0.05 ppm

さやいんげん（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植穴土壌混和（2g/株）し、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（100, 300L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.18、0.30 ppm

㊨ さやえんどう

さやえんどう（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植穴土壌混和（2g/株）したところ、処理後100～130日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.06、<0.05 ppm

さやえんどう（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植穴土壌混和（2g/株）し、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.20、0.14 ppm

⑩未成熟だいず

未成熟だいず（えだまめ）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回播種時播溝処理（3kg/10a）し、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、0.16 ppm

未成熟だいず（えだまめ）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植穴土壌混和（3kg/10a）し、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、処理後14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.10、0.16 ppm

⑪未成熟ささげ

未成熟ささげ（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回播種時植穴土壌混和（2g/株）したところ、処理後61~99日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.05、<0.05 ppm

⑫未成熟そらまめ

未成熟そらまめ（可食部）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.11、0.20 ppm

⑬れんこん

れんこん（可食部）を用いた作物残留試験（2例）において、0.25%粉剤を2回散布（4kg/10a）したところ、散布後14~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

れんこん（可食部）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回植付時作条土壌混和（3kg/10a）し、0.25%粉剤を2回散布（4kg/10a）したところ、散布後14~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

れんこん（可食部）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を1回植付時作条土壌混和（3kg/10a）し、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後14~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01 ppm

れんこん（可食部）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を1回植付時作条土壌混和（6kg/10a）した後、2回散布（6kg/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01 ppm

れんこん（可食部）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を1回植付時作条土壌混和（3kg/10a）し、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01 ppm

れんこん（可食部）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を1回植付時作条土壌混和（3kg/10a）した後、2回散布（6kg/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01 ppm

#### ⑥4モロヘイヤ

モロヘイヤ（可食部）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を1回散布（300L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.4、1.0 ppm

#### ⑥5ふだんそう

ふだんそう（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.70、2.01 ppm

#### ⑥6食用さくら

食用さくら（葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を1回散布（300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.80、0.36 ppm

#### ⑥7さといも（葉柄）

さといも（葉柄）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.48、0.30 ppm

さといも（葉柄）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を植付時植溝土壌混和（4kg/10a）し、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.10、0.24 ppm

⑧くわい

くわい（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後21~43日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

⑨食用プリムラ

食用プリムラ（花器全体）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後14~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.23、0.18 ppm

⑩じゅんさい

じゅんさい（葉）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を1回散布（3kg/10a）したところ、散布後1~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.06 ppm

じゅんさい（葉）を用いた作物残留試験（1例）において、1%粒剤を1回散布（3kg/10a）したところ、散布後1~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.16 ppm

⑪うど

うど（軟化茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後60日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

⑫ヤングコーン

ヤングコーン（幼果・雌穂）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（100~150L/10a）したところ、散布後3~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

㊸温州みかん

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布（700, 500L/10a）したところ、散布後14～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.02、0.06 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布（700, 500L/10a）したところ、散布後14～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.08、2.28 ppm

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの10倍希釈液を3回無人ヘリコプター散布（2.5L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの10倍希釈液を3回無人ヘリコプター散布（2.5L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.24、0.22 ppm

㊸夏みかん

夏みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布（400L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

夏みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布（400L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.43、0.66 ppm

夏みかん（果実全体）<sup>註3)</sup>を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布（400L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.15、0.25 ppm

夏みかん（果肉）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの10倍希釈液を3回無人ヘリコプター散布（2.5L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01 ppm

夏みかん（果皮）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの10倍希釈液を3回無人ヘリコプター散布（2.5L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.19 ppm

夏みかん（果実全体）<sup>註3)</sup>を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの10倍希釈液を3回無人ヘリコプター散布（2.5L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.06 ppm

#### ㊦いよかん

いよかん（果肉）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの10倍希釈液を3回無人ヘリコプター散布（2.5L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.01 ppm

いよかん（果皮）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの10倍希釈液を3回無人ヘリコプター散布（2.5L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.22 ppm

いよかん（果実全体）<sup>註3)</sup>を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの10倍希釈液を3回無人ヘリコプター散布（2.5L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.07 ppm

#### ㊧すだち

すだち（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布（250L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下

のとおりであった。

イミダクロプリド：0.03 ppm

すだち（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの10倍希釈液を3回無人ヘリコプター散布（2.5L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.15 ppm

#### ㊦かぼす

かぼす（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3回散布（600L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.26 ppm

かぼす（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの10倍希釈液を3回無人ヘリコプター散布（2.5L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.05 ppm

#### ㊧りんご

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（500L/10a）したところ、散布後21～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.120、0.029 ppm

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（600L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.20、0.12 ppm

#### ㊨なし

なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後30～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.197、0.060 ppm

なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,500倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.14、0.19 ppm

なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの5,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.08、0.06 ppm

なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後28～42日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.13、0.12 ppm

なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（350、400L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.15、0.20 ppm

#### ⑩びわ

びわ（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.02 ppm

びわ（果実・有袋）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.04 ppm

びわ（果実・無袋）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：2.54 ppm

びわ（果実・有袋）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.18 ppm

びわ（果実・無袋）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.19 ppm

⑧もも

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後30～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.195、0.140 ppm

もも（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後30～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.593、0.388 ppm

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,500倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.12、0.11 ppm

もも（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,500倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.53、0.70 ppm

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの5,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.06、0.07 ppm

もも（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの5,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.26、0.30 ppm

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.16、0.14 ppm

もも（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（400L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：1.2、2.2 ppm

㊸ネクタリン

ネクタリン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（15L/樹、700L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.28、0.18 ppm

㊹あんず

あんず（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの5,000倍希釈液を2回散布（400L、300L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.29、0.17 ppm

㊺すもも

すもも（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（300、400L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.07、<0.01 ppm

すもも（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（300、400L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.04、<0.01 ppm

㊻うめ

うめ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（300、400L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.07、0.06 ppm

㊼いちご

いちご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植穴処理（1g/株）したところ、処理後105～160日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.01、0.03 ppm

いちご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植穴処理（1g/株）し、10%水和剤の2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後3日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.81、0.18 ppm

#### ㊦ぶどう

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後21～30日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.338、0.256 ppm

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.16、0.28 ppm

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験（4例）において、20%フロアブルの5,000倍希釈液を2回散布（300, 300, 500, 300L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.26、0.06、0.76、0.72 ppm

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.59、0.74 ppm

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の50倍希釈液を2回常温煙霧処理（10L/10a）したところ、処理後21～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.08、0.08 ppm

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の50倍希釈液を2回常温煙霧処理（10L/10a）したところ、処理後21～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.06、0.12 ppm

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.78、0.41 ppm

㉘かき

かき（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.35、0.28 ppm

㉙キウイフルーツ

キウイフルーツ（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（278, 300L/10a）したところ、散布後1～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.05、<0.05 ppm

㉚マンゴー

マンゴー（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%水和剤の1,000倍希釈液を2回散布（450L/10a）したところ、散布後14～30日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.49、0.45 ppm

㉛パッションフルーツ

パッションフルーツ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（250, 625L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.15、0.28 ppm

㉜アセロラ

アセロラ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（500, 400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.18、0.30 ppm

㉝ピタヤ

ピタヤ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.26、0.11 ppm

⑨4 アテモヤ

アテモヤ(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布(270L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.18 ppm

アテモヤ(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布(300L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.02 ppm

⑨5 くり

くり(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、10%水和剤の1,000倍希釈液を3回散布(300L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：<0.01、<0.01 ppm

⑨6 いちよう種子(ぎんなん)

いちよう(種子)を用いた作物残留試験(1例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布(300L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：<0.005 ppm

いちよう(種子)を用いた作物残留試験(1例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布(300L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

イミダクロプリド：0.01 ppm

⑨7 茶

茶(荒茶)を用いた作物残留試験(2例)において、10%水和剤の1,000倍希釈液を1回散布(200L/10a)したところ、散布後13~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：2.30、1.92 ppm

茶(浸出液)を用いた作物残留試験(2例)において、10%水和剤の1,000倍希釈液を1回散布(200L/10a)したところ、散布後13~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.85、1.90 ppm

茶（荒茶）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：3.84、3.98 ppm

茶（浸出液）を用いた作物残留試験（2例）において、50%顆粒水和剤の5,000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：2.53、3.31 ppm

㊸ コリアンダー

コリアンダー（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（150, 200L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.49、1.07 ppm

㊹ あさつき

あさつき（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、1%粒剤を1回定植時植溝土壌混和（4kg/10a）し、20%フロアブルの2,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：2.4、1.4 ppm

㊺ しそ

しそ（葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を1回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：0.70、0.28 ppm

しそ（花穂）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの4,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

イミダクロプリド：1.68、0.18 ppm

㊻ みょうが

みょうが（花穂）を用いた作物残留試験（1例）において、50%顆粒水和剤の10,000倍希釈液を2回散布（350L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下の